

分野 3

人と自然が共生するまち「ながの」(環境分野)

政策 1

環境に負荷をかけない持続可能な社会の形成

施策 1 脱炭素社会の構築

…… 施策番号 19

施策 2 循環型社会の実現

…… 施策番号 20

政策 2

自然と調和した心地よい暮らしづくりの推進

施策 1 豊かな自然環境の保全

…… 施策番号 21

施策 2 良好で快適な環境の保全と創造

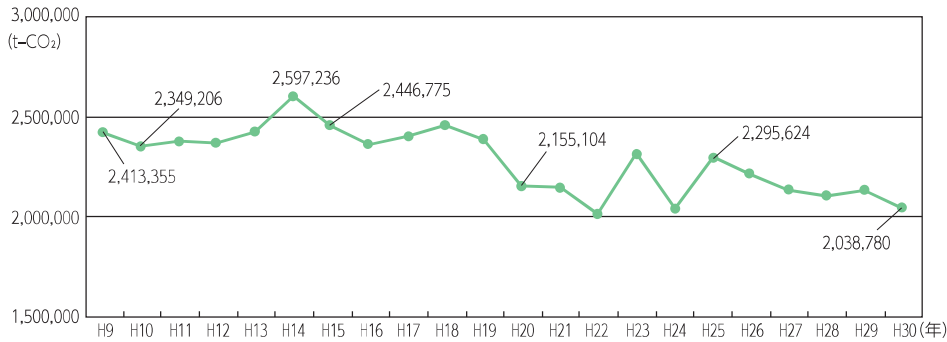
…… 施策番号 22

現況と課題



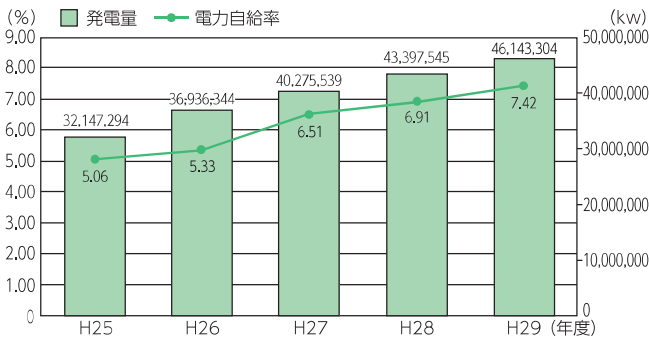
● 地球温暖化による市民生活等への影響が顕在化する中、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする取組が強く求められています。気候変動の緩和策としては、温室効果ガス*の排出削減のため、再生可能エネルギー*の普及拡大やエネルギー消費の効率化などの推進が求められており、特に本市においては、森林資源が豊富な地域特性を活かした地域固有の木質バイオマス*エネルギー*の活用を促進する必要があります。また、進行する気候変動への適応策としては、影響軽減や早期警戒に関する教育や啓発などの対策の重要性が高まっています。

◆温室効果ガス排出量



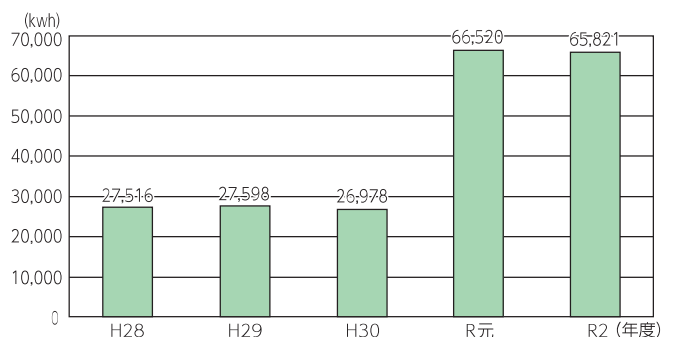
資料：環境保全温暖化対策課

◆太陽光発電による家庭の電力自給率



資料：環境保全温暖化対策課

◆バイオマス発電量



資料：新産業創造推進局

目指す状態









温室効果ガスの排出削減を意識した日常生活や事業活動が営まれ、排出量が年々減少しているとともに、一定程度上昇する気温の影響など、気候の変化による被害を回避、軽減している。(緩和策+適応策)

主な取組

- 地域における木質バイオマスエネルギー資源の活用を促進します。(新産業創造推進局、森林いのしか対策課、環境保全温暖化対策課) (施策番号44関連)
- 地域における再生可能エネルギーの適正な活用を促進します。(環境保全温暖化対策課)
- 家庭や事業所等の省エネルギーを促進します。(環境保全温暖化対策課) (施策番号54関連)
- 森林等による二酸化炭素吸収を促進します。(森林いのしか対策課) (施策番号44関連)
- 気候変動の影響に対する、適応策の啓発を促進します。(環境保全温暖化対策課)

* 脱炭素社会……地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする社会のこと。
 * 温室効果ガス……地球の気温を上昇させる効果を有する気体のこと。具体的には、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素などがある。
 * 再生可能エネルギー……自然界で起こる現象から取り出すことができる繰り返し使用可能なエネルギーのこと。具体的には、太陽光、水力、バイオマスエネルギーなどがある。
 * バイオマス……家畜排せつ物や生ごみ、木くずなど動植物由来の有機物資源のこと。エネルギーとしての利用が可能。
 * 木質バイオマスエネルギー……木材に由来する再生可能な資源からつくられたエネルギーのことで、まき、木炭、チップ、ペレットなどがある。燃焼時に二酸化炭素を排出するが、成長過程で二酸化炭素を吸収しているため、二酸化炭素の排出量はゼロとみなされる。

アンケート指標 (市民が思う割合)  環境や体制に関する評価  回答者自身の実践状況

指標名	現状値	目標
 身のまわりにおいて、太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える取組が日常的に行われている	22.9%	
 日常生活において、災害における防災・減災対策や熱中症予防など、温暖化に伴う影響に備えた取組が行われている	48.0%	
 太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える暮らしをしている	40.2%	
 災害に対する備え(防災グッズ・ハザードマップの確認)や熱中症対策など、温暖化の影響への対応を心掛けた暮らしをしている	76.0%	

統計指標 (統計による指数)

指標名	内容	現状値	目標
温室効果ガス排出量	各種統計資料の電力使用量や自動車登録台数などのデータを用いて算出した市民一人当たりの年間温室効果ガス排出量	5,476kg -CO ₂ (H30)*	4,251kg -CO ₂ 以下
再生可能エネルギーによる電力自給率(発電設備容量)	発電設備容量(①水力・小水力+②太陽光+③バイオマス)÷最大電力需要量	56.4%	70.0%
バイオマス発電量	市内バイオマス発電施設による年間発電量	65,821 MWh	84,500 MWh

*現状値は温室効果ガス排出量の推計に使用する都道府県別エネルギー消費統計データの公表時期に連動するため3年遅れのものとなる。

個別計画

第四次長野市環境基本計画、アジェンダ21ながの～環境行動計画～2018、長野市バイオマス産業都市構想、長野市森林整備計画

施策2 循環型社会※の実現 [生活環境課]

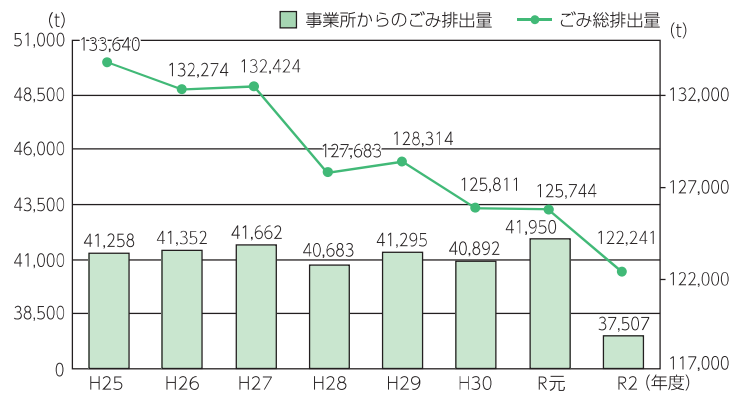
施策番号 20

現況と課題



- 家庭ごみ処理有料制度等の導入や地域における資源回収の定着により、ごみの総排出量は減少傾向ですが、事業所からのごみの排出量が横ばいであることから、事業所に対する啓発・指導を強化する必要があります。
- 長野広域連合が進める広域での効率的なごみ処理体制の構築に、構成市町村の一員として取り組む必要があります。

◆ごみ排出量



資料：生活環境課

目指す状態

市民や事業者がごみの発生抑制に積極的に取り組み、排出量が年々減少している。

主な取組

- 事業所からのごみの発生抑制に向けた啓発・指導を強化します。(生活環境課、廃棄物対策課、環境保全温暖化対策課)
- 家庭等からのごみの発生抑制を促進します。(生活環境課、環境保全温暖化対策課)
- 資源の適正かつ有効な利活用を促進します。(生活環境課、環境保全温暖化対策課、廃棄物対策課)
- 広域での効率的なごみ処理体制の構築に構成市町村の一員として取り組みます。(生活環境課)
- ごみの適正処理を推進します。(生活環境課、資源再生センター、廃棄物対策課、衛生センター)
- プラスチックスマート*運動を推進し、プラスチック削減に向けた取組を進めます。(環境保全温暖化対策課、生活環境課)

アンケート指標 (市民が思う割合) 環境や体制に関する評価 回答者自身の実践状況

指標名	現状値	目標
身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている	44.1%	
食べ物を無駄にしないなど、ごみを出さないように気をつけて生活している	85.2%	
マイボトルを携帯したり、ストローやスプーンをもらわないなど使い捨てプラスチックの削減に取り組んでいる	76.0%	
ごみの分別を徹底している	93.7%	

統計指標 (統計による指数)

指標名	内容	現状値	目標
事業所からのごみ排出量	事業所からのごみ排出量 (産業廃棄物を除く)	40,898t*	40,004t
ごみ総排出量	市民一人一日当たりのごみ排出量	926g*	881g

*平成30年度排出量 (令和元年度は東日本台風災害の影響で事業所ごみの排出量が多く、令和2年度は新型コロナウイルス感染症による影響で在宅勤務が増え事業所ごみの排出量が大幅に減少したため)

個別計画

第三次長野市環境基本計画、アジェンダ21ながの～環境行動計画～2018、長野市一般廃棄物処理基本計画

※ 循環型社会……………「ごみの量を減らす (リデュース)」、「繰り返し使う (リユース)」、「再び利用する (リサイクル)」といった行動により、天然資源の消費が抑えられ、環境への負荷が低減された社会のこと。

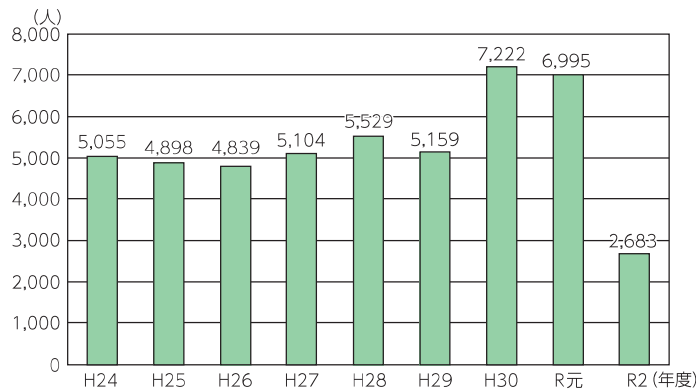
※ プラスチックスマート……………世界的な海洋プラスチック問題の解決に向けて、個人、自治体、NGO、企業、研究機関など幅広い主体が連携共同して取組を推進する。

現況と課題



- 豊かな自然を守るため保全活動に取り組んでいるものの、希少動植物^{*}の減少、気候変動による植生の変化などが危惧されています。
- 教育や情報発信を通じて自然環境保全に対する理解と関心を更に高めるとともに、生物多様性の保全活動などを、市民、事業者、行政が協働して取り組み、環境と共生する持続可能な社会へとつなげていく必要があります。

◆環境学習会参加者数



資料：環境保全温暖化対策課

目指す状態

豊かな自然環境や生物多様性が保たれ、自然と触れ合うことができる。

主な取組

- 地域や事業者等の環境保全活動を促進し、多様な担い手を育成します。(環境保全温暖化対策課)
- 市民一人ひとりの環境保全行動を促す環境教育を推進するとともに、具体的で分かりやすい環境情報を発信します。(環境保全温暖化対策課)
- 地域特有の生態系^{*}を保全し、生物多様性を確保します。(環境保全温暖化対策課)
- 国立公園を適正に管理するとともに、利活用を促進します。(環境保全温暖化対策課、観光振興課)

アンケート指標 (市民が思う割合) 環境や体制に関する評価 回答者自身の実践状況

指標名	現状値	目標
豊かな自然環境が保たれている	70.4%	➡
自然について学び触れ合うなど、自然環境保全を意識した暮らしをしている	51.7%	↺

統計指標 (統計による指数)

指標名	内容	現状値	目標
環境学習会参加者数	市及び各団体が主催する環境学習会の参加者数	2,638人	5,500人

個別計画

第三次長野市環境基本計画、アジェンダ21ながの～環境行動計画～2018

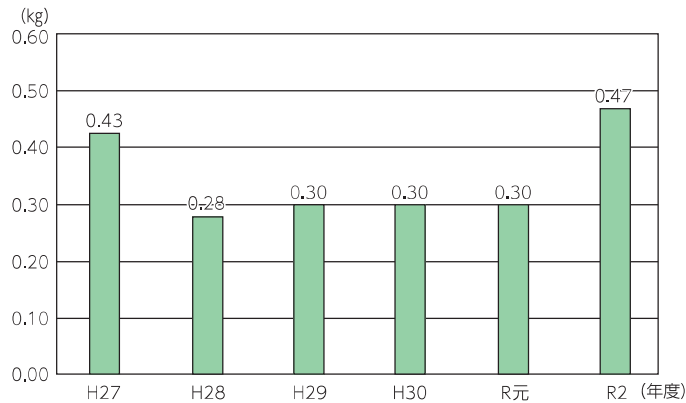
^{*} 希少動植物……………絶滅のおそれのある野生の動植物のこと。
^{*} 生態系……………一定の場所に存在する全ての生物とその環境をひとつのまとまりとして捉えたもの。

現況と課題



- 清潔なまちなみなど生活環境は概ね良好に保たれているものの、ごみのポイ捨てや不法投棄があとを絶たないことから、環境美化に対する地域や事業者等の意識を高め、環境美化活動を促進するとともに、捨てられにくい環境づくりを推進する必要があります。

◆ゴミ0運動参加者一人あたりのごみ回収量



資料：環境保全温暖化対策課

目指す状態 良好な生活環境が美しく保たれている。

主な取組

- ごみのポイ捨てや不法投棄されにくい環境づくりを推進します。(生活環境課、廃棄物対策課、環境保全温暖化対策課)
- 地域や事業者等の環境美化活動を促進します。(環境保全温暖化対策課、生活環境課)
- ごみの不法投棄を早期に発見し、適正に処理します。(生活環境課、廃棄物対策課、環境保全温暖化対策課)
- 環境汚染や生活型公害*を未然に防止します。(環境保全温暖化対策課、環境衛生試験所、廃棄物対策課、生活環境課)
- 公共用水域における水質汚濁を低減します。(生活環境課、環境保全温暖化対策課、営業課、下水道整備課)

アンケート指標 (市民が思う割合) 環境や体制に関する評価 回答者自身の実践状況

指標名	現状値	目標
空気や水がきれいで、まちも美しく保たれている	71.8%	➡
地域の環境美化活動など、良好な生活環境を保つための取組に参加している	47.5%	↺

統計指標 (統計による指数)

指標名	内容	現状値	目標
ポイ捨て等ごみ回収量	地区環境美化活動における参加者一人あたりのごみ回収量	470g	300g以下

個別計画 第三次長野市環境基本計画、アジェンダ21ながの～環境行動計画～2018

* 生活型公害……………近隣騒音・生活雑排水による河川・湖沼の汚染などの都市活動や生活に密接に係る公害のこと。